

第3回宇治市交通バリアフリー推進連絡会の議事概要

日時：平成21年7月3日(金)

14:00~16:00

場所：宇治市議会棟 第3委員会室

<出席者>

【委員長】

大阪大学大学院 新田 保次

【副委員長】

京都文教大学 森 正美

【市民代表】

宇治市身体障害者福祉協議会	羽野 力
宇治市連合喜老会	馬場 恒雄
宇治子育てを楽しむ会	土田 敬子
宇治市社会福祉協議会	曾谷 武
宇治商工会議所	小林 寛明

【公共交通事業者】

西日本旅客鉄道(株)京都支社	奥田 英雄
近畿日本鉄道(株)	平田 勝己
京阪電気鉄道(株)	河辺 正人

【行政機関】

近畿運輸局 京都運輸支局	羽田 祐治
宇治警察署 交通課	東 忠幸(代理)
山城北土木事務所 道路計画室	大黒 澄人(代理)
宇治市 健康福祉部	田中 秀人
宇治市 建設部	三枝 政勝
宇治市 都市整備部	石井 章一

【事務局】

都市整備部交通政策課	原田 繁樹
	長谷川 昇治
	木田 健士
	永池 孝二
建設部道路建設課	飯田 克夫

(敬称略)

【1. 委員変更の紹介】

司会者が、変更した委員(3名)の紹介。
精神障害者家族会「茶の実」の解散について報告。

【2. 開会あいさつ】

宇治市都市整備部長が、開会のあいさつ。(内容省略)

【3. 前回推進連絡会の内容確認】

事務局が、「第2回推進連絡会の議事概要」(資料-1)に基づき説明。(内容省略)

【4. 昨年度の結果と今年度の予定】

事務局により、「第3回推進連絡会資料」(資料-2)に基づき説明。(内容省略)

○意見交換の概要

市民委員: 先日のゲリラ豪雨の際、道路が川のようになり、小倉駅の地下道では入口に土嚢が積まれ、地下道が通行できなくなった。周辺の排水の問題だと思うが、昨年も同様のことがあり、どの程度取り組みが進んだのか。

事務局: 昨年のゲリラ豪雨では、小倉駅の地下道に水が浸入し、近接する商業施設に被害が及んだ。その後、道路管理部局が周辺の排水を調査し、取組を検討すると聞いているが、まずは、同じような被害を出さないため、土嚢で対処すると聞いている。
具体的な進捗状況は、担当部局に確認し、別途連絡する。

市民委員: 京阪三室戸駅に多機能トイレが整備されたということであったが、改札付近のスロープの勾配は改善されたのか。

事務局: 基本構想の中でも記載しているが、地形的な制約があつて、スロープの改善は困難であり、まずはできることから取組もうということで、昨年度の事業が実施された。

市民委員: 京阪宇治駅周辺地区内の宇治駅-三室戸駅間の転倒事故などが多い踏切があるが、直近の土地での宅地開発や太閤堤での取り組みがあると聞かすが、この踏切は取組まないのか。

事務局：踏切を改良するため、現在用地取得に取り組んでいる。この事業はバリアフリー構想の事業ではなく、安全対策として取り組んでいる。

市民委員：新田駅の事業について、橋上駅にして、自由通路を整備してほしいが、せめて今回のバリアフリー化事業で東側に改札口を設けてほしい。

事務局：この事業では、東側に改札口を設けることにはなっていない。改札口を2箇所に分けることは、維持管理上難しいと聞いている。

公共交通事業者：東側の改札口の要望は聞いているが、これよりも橋上駅・自由通路を達成したいと考えており、今後も自治体と協議していきたい。

市民委員：新田駅で自由通路の構想があるのであれば、前倒して、早く実施してほしい。

事務局：長期的なビジョンとして新田駅の自由通路の必要性は認識しているが、バリアフリーの目標年次が平成22年度ということがあり、当面取り組むべきこととして、バリアフリー化が実施されている。新田駅の東西のまちづくりと自由通路はセットになるため、今すぐ取り組むことは困難である。

市民委員：近鉄小倉駅周辺で歩道整備される件で、今回整備される歩道で行き止まりになる区間については整備しないで、片側の歩道をもっと広くする方が安全ではないか。

事務局：隣接者である京都銀行と協議した結果、歩行空間が必要となった。

委員長：心配されているのは、行き止まりになっている踏切の直近で、歩行者が車道に出ることだと思う。

事務局：将来の両側歩道の展望を持ち、今回両側歩道を整備するが、将来の区間には入りやすく、横断しにくい対策を検討する。

市民委員：黄檗駅周辺で歩道拡幅される件で、以前から幼稚園・中学校付近の横断歩道に押しボタン信号機の要望をしているが、現在の道路形状では設置は無理だと返答されている。この事業を機会に再検討してほしい。

事務局：今回の整備区間は短く、将来的には両側歩道を目指しているが、用地のこともあり、どの程度順調に事業が進むのかはわからない。

今後の事業進捗とあわせて、詰めていければと思う。

委員長：道路拡幅されれば、交通量の増加も懸念される。信号設置の要望も出ているということであり、引き続き検討してほしい。

市民委員：肢体障害者協会では、小中学校の福祉教育として、車いす体験をしてもらい、障がい理解してもらうための活動を行っている。

また、道路の段差については、モデル地域については実施されているが、現実はまだまだ多くの段差がある。道路の段差をなくしてほしい。

【5. ソフト施策】

事務局が、「ソフト施策」(資料-3)に基づき説明。(内容省略)

副委員長が、京都文教大学の取組を説明。(内容省略)

○意見交換の概要

市民委員：車イス利用者がバスに乗り込み際にケアする人がおらず大変である。バスに1人きちんと介助ができる方に乗ってもらい、サポートしていただけるとありがたい。

市民委員：市役所の「障害者駐車場」には、障がいのない人も利用していると思う。市の警備員の方に利用の仕方をきちんと指導していただけたらありがたい。また、名称についても「車いすの方や肢体不自由者や介助の必要な方」というように変えた方が良いと思う。

事務局：関係部署と相談する。

市民委員：歩道を自転車が走り、歩行者が車道に出なければならないときがある。自転車がはしってもよい歩道幅員を決めた方がよい。

事務局：道路交通法で歩道の自転車通行について決まりがある。宇治市独自で幅員を決めることは難しい。歩道はあくまで歩行者優先であること、交通教室などで周知し、マナーアップに繋げていきたい。

市民委員：日常のゴミ出しで、歩道上に出ていることがある。回収時にチェックし、行政で指導してはどうか。

事務局：ゴミの定点置場は地域で決められており、歩道上のところもある。変更することは困難で、ゴミを減らす啓発や広げて出さないような啓発を行っている。

委員長： 地域の方に疑似体験を通じて、自分の行動を見直してもらうようなことができれば良いと思う。

副委員長： 学生たちと疑似体験に取り組んでいるが、実際体験することで、「このぐらいならいいか」ということが、とんでもないバリアであったことに気づく。

ゴミの定点も地域の同意があれば移動することもできる。例えば、障がいのある方でチェックし、検証結果を地域に声をあげていくというのも、良くしていく方法の1つだと思う。

<まとめ>

委員長： バリアフリーの取り組みは、「とりあえず実施したから良い」というものではなく、実際に障がいのある方が利用しやすい状況にならなければいけない。そういった意味でスパイラルアップを推奨している。この推進連絡会も構想が進んでいることを報告されていることは良いことですが、現地で完了した事業をチェックし、改善点を次に活かすことが大切だ。障がいのある方によるチェックなど、様々なところから、具体的な意見が出てくれば次に繋がると思う。

また、宇治では観光とバリアフリーという難しい課題がある。本日はソフト施策を報告していただいたが、引き続き取り組み、来年のこの場で細かいことでもいいので、ハード施策でもよいので実施したことを報告していただきたい。それと難しいことではあるが、宇治の観光客で障がいのある方がどのくらい来訪しているのか、調べる方法を検討していただきたい。障がいのある方が観光し、良かった点や満足感を整理し、次の観光施策に活かせば、全体の観光客の増加にも繋がると思う。

本日も活発で様々なご意見が出た。

取り組んでいけることはどんどん取り組んでいただきたい。

また来年のこの場で、様々な成果や新たな前進を報告いただきたい。